

— 香川県 —

かぼがわ

梶川ダムの竣工と通常管理に移行するまでの道のり



1. 梶川ダムの竣工

令和3年7月27日、梶川ダムの竣工式が執り行われた（下写真）。未曾有のコロナ禍への対応から、これまで香川県で開催された竣工式典に比べ規模を縮小することとし、事業関係者、施工者、地元関係者等の人数を、最小限に絞り開催した。式典出席者は少なくなったが、香川県下最大規模となる梶川ダムへの期待は大きい。実際、式典参加者からは、竣工を喜ぶ声や水源確保に対する安心の声が多かった。しかし、我々工事担当者は、通常管理への移行に向けて、まだまだ気の抜けない日々が続く。本稿では、梶川ダムの概要と試験湛水状況を報告する。



梶川ダム竣工式の様子

2. 梶川ダムの概要

梶川ダムは、香川県高松市南部に位置する二級河川香東川水系梶川に建設した、総貯水量10,560,000m<sup>3</sup>の重力式コンクリートダムである。その目的は、洪水時に下流河川の水量を低減する①洪水調節、農業用水や生活用水を確保し河川環境や景観を守る②流水の正常な機能の維持、高松市域への③水道用水の供給、異常渇水時の渇水被害を軽減する④異常渇水などの緊急水補給の4つがある（右図）。

3. 梶川ダムの試験湛水

ダム完成後、水を貯めて堤体及び貯水池周辺等の安全性を検証する「試験湛水」が完了した後に通常管理に移行する。試験湛水の期間は通常、半年～1年程度で完了するダムが多い中、シミュレーション



貯水容量配分図

の結果、梶川ダムは、3年半程度かかる見込みである。これは渇水対策容量を持つため、梶川の流況に対し総貯水容量が大きいこと等に起因する。

梶川ダムではこの3年半という長い期間、毎日ダム堤体及び貯水池周辺を綿密に計測、監視を行う必要がある。具体的には、堤体及び貯水池周辺の変位や漏水の有無等を確認する巡視作業と、揚圧力や漏水量等のデータを収集する計測作業を実施する。この結果、計測数値等に異常が認められると原因の究明や対策の実施により通常管理への移行が遅れるため、担当者は試験湛水が完了するまで安心できない。

梶川ダムでは、試験湛水を令和3年3月2日に開始して以降、順調に試験湛水を進めており、竣工式当日時点で総貯水容量に対する貯水率は約27%に達している（下写真）。このまま順調に試験湛水が完了し、1日でも早く通常管理に移行することを願う日々は続くのである。



梶川ダム試験湛水状況（令和3年7月27日時点）

前香川県 高松土木事務所 梶川ダム建設事務所 多田 達弥  
（現香川県 高松土木事務所 道路第一課）